

富山市立図書館

図書館だより

第47号
2011.8

金沢海みらい図書館

特色ある新図書館紹介



外観

1. 金沢海みらい図書館とは

金沢海みらい図書館は玉川図書館、泉野図書館に次ぐ金沢市立図書館4番目の大規模館で、金沢外環状道路（海側幹線）の整備に伴う公共用地の有効活用と、地元住民の図書館建設の要望により、今年5月21日に新規開館しました。

開館初日の入場者数は約5千5百人、開館後1ヶ月間で入館者数は延べ9万人、貸出冊数は約9万3千冊、1日平均3,500冊を貸出していて、玉川図書館、泉野図書館の貸出冊数のほぼ倍近くの利用があります。図書館の周辺は住宅地・商業地として発展していて、金沢市内でも人口増加率が高い地域であり、今後もさらに多くの利用が見込まれます。

2. 施設・設備

まず建物の外観が特徴的で、外壁に多数の水玉が描かれているデザインに見えますが、これは6,000個もの丸窓で、そこから施設内に外光が入ります。

建物の中に入ると入口足元から点字ブロックが伸び、その先に点字での施設案内が用意されています。

他にも利用者用の車椅子とベビーカーが常時備え付けられていて、建物全体がバリアフリーに対応しています。また、市民交流の場としての交流ホール、集会室、グループ活動室があり、教育や文化に関わる活動であれば無料で利用できます。

1階の図書館フロア部分には、総合カウンターと児童図書コーナーがあり、広く明るい雰囲気になっています。児童コーナーには授乳室や子ども専用トイレも用意されています。

2階は一般図書コーナーで、レファレンスカウンターや雑誌・新聞もこのフロアにあります。フロアのいろいろな場所に蔵書検索端末が設置されていて、資料検索後にその場で職員を通さず予約申し込みができるようになっています。また、インターネットコーナーには6台の利用者用端末があり、情報コンセント席では持ち込みのパソコンをLANに接続し利用することができます。

●基礎データ●

延床面積	5,438.97㎡
蔵書冊数	17万冊 (うち、児童書2万2000冊)
蔵書収容力	最大40万冊 (うち、自動化書庫13万冊)
閲覧席	300席(学習専用席含む)
駐車場	108台

※金沢海みらい図書館 金沢市寺中町イ1-1 URL: <http://www.lib.kanazawa.ishikawa.jp/umimirai/>

このフロア（2階）は3分の2が吹き抜けになっていて、天井までの高さが12mあります。建物の中央には1階から3階まで移動できるガラスのエレベーターがあり、エレベーターを取り囲むように設計された筒状の壁が、吹き抜けの広い空間にそびえ立っているのが特徴的です。

3階には地域情報フロアとして、ものづくり情報コーナーと日本海情報コーナーがあり、郷土資料が集められています。また、子どもから大人まで利用可能な、学習専用席も設けられています。



自動貸出機

3. IC タグの活用

海みらい図書館には現在17万冊の蔵書があり、その全てにICタグが貼付されています。

館内には6台の自動貸出機があり、多くの利用者が自分自身で機械を操作し、貸出手続きを行っています。開館当初より、職員が自動貸出機のそばに待機し、利用者に自動貸出機の利用を促しています。

また、図書館エリアの入口にはBDSゲート（不正持出防止装置）が設置されていて、無断持ち出しを防止しています。他にもICタグを利用した自動化書庫には最大13万冊の資料が収蔵でき、省スペース化に役立っています。

なお、海みらい図書館以外の金沢市立図書館の資料はICタグに未対応のため、予約資料や他館資料については、職員がカウンターで貸出手続きを行っています。（本館 新保）



自動化書庫

（右は、指定した資料を自動化書庫から取り出したところ）

岩倉政治文庫の資料 其の十五

『ごめんあそばせ』岩倉 リイ 青磁社 昭和60年（1985年）

岩倉の妻・リイは歯科医師でした。夫のように専門の文筆家ではありませんでしたが、彼女もまた、折にふれて「富山新聞」等に随筆を発表しています。それらをまとめたものがリイの著書『ごめんあそばせ』です。

学生時代から、歯科医になった経緯までを回想した「私は歯医者」、なじみの患者も自分も、いつしか年老いていた、という感慨にふける「治療室風景」などを読むと、リイの社会に向ける、穏やかな視線が感じ取れます。

岩倉は、自分の作品が仕上がると、まずリイに読んで聞かせ、感想を求めているそうです。この本に寄せた文章の中で、岩倉が彼女のことを「大切な師匠」と呼んでいるように、作品の良し悪しを見抜く、リイの確かな批評眼に信頼を置いていたことを示

すエピソードです。

現在、富山市立図書館1階展示コーナーにおいて、企画展示「岩倉政治 家族とともに」を開催中です。『ごめんあそばせ』の原稿（複写）や写真・書簡など、リイにまつわる遺品の数々や、学問・芸術等それぞれの分野で活躍する息子・娘たちの業績を示す品々など、岩倉と家族の強い絆に焦点をあてた展示です。（本館 舟山）



（右）『ごめんあそばせ』装幀・挿画は、盤若一郎氏によるもの

（左）『ごめんあそばせ』岩倉リイ自筆原稿

心の贈り物 ー手紙ー

懐かしい人から便りが届くと、嬉しい気持ちになります。一枚のはがきに書かれた、さりげない言葉ほど心に残るものはありません。不慮の事故で手足の自由を失った星野富弘氏は、その闘病生活を『愛、深き淵より。』（立風書房 1981）に綴っています。著者は、励ましの手紙をもらう度に自分でお礼の手紙を書きたいという思いを深め、口に筆をくわえ、筆が碎けるほど強く噛んで文字を書き始めたと記しています。

今回は、「手紙」を通して、心が伝わる作品を紹介します。



『書は語る 書と語る』

増田 孝／著

風媒社 2010

長年、古文書解読の鑑定に携わっている著者が、織田信長や千利休、岡倉天心など 21 人が遺した「書」を読み解きます。彼らの遺した史料に「口語訳」や「解説」をつけ、その人物の置かれた立場や歴史の流れと合わせて、その人柄に迫っています。

著者は本書の執筆中に、新史料にもいくつか出会います。その一つが、西郷隆盛の長文の手紙です。無骨なイメージの強い西郷が、優れた詩人であり、漢籍の教養の持ち主であったことをその手紙からうかがい知ることができます。書の歴史を研究する著者の、第一等級の新史料に巡り合えた喜びや、熱い想いが伝わってきます。墨や筆でしか、相手に思いを伝えることができなかった当時の手紙だからこそ、その文字に人柄や素顔が表れ、「書は人なり」とであると著者は伝えます。

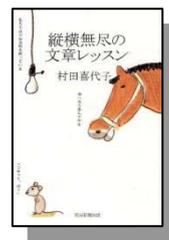
さて、現代では様々な通信手段が発達し、手紙のほかに電子メールでのやり取りも多くなっています。

『高手を振る日』（黒井 千次／著 新潮社 2010）では、古希を過ぎて、未来のない行き止りを感じる

主人公、浩平が大学の同期生の重子と再会し、携帯電話を持つことで再び心が動き出すさまを描きます。

<おあいしたい げんきになったしげこさんにはやくあいしたい>と、漢字に変換できず、すべてひらがなのメールを送る浩平。淡い想いや返事が戻ってくるまでの心の揺れを丁寧にすくいと描写しています。高齢者のときめきを爽やかな物語にする著者に、熟練の筆力を感じます。

新しい伝達ツールがある一方で、手紙の作法は変わらないものです。『十頁だけ読んでごらん下さい。十頁たって飽いたらこの本を捨てて下さって宜しい。ー狐狸庵先生の心に届く手紙ー』（遠藤周作／著 海竜社 2006）は、昭和 35 年に執筆され、行方不明となっていた原稿が、没後 10 年目に偶然発見され出版されたものです。今から 50 年程前のものですが、内容は現代にも通じ、「手紙を書くときは読む相手の身になって」と、狐狸庵先生からユーモアたっぷりに指導を受けることができます。



『縦横無尽の文章レッスン』

村田 喜代子／著

朝日新聞出版 2011

また、手紙の文章を書くのが苦手という方におすすめしたいのが、芥川賞作家の著者がやさしく文章作法を指南してくれるこの本です。

良い文章を書くには多くの本を読んで味わい、自分でも書いてみる、そのサイクルを繰り返すことが文章に対する感度を育てるのだと著者は説きます。様々なテキストを例にして、その文章のうまさやおもしろさ、時にはどこが悪いのかがわかり、まるで講義を聴いているようです。たとえ文章が下手でも、自分流の表現で、誰かに手紙で思いを伝えたいくなります。

（八尾ほんの森 小川）

レファレンスあれこれ

Q. 南京玉すだれの、様々な形の作り方を知りたい。

A. 大道芸の一つとして知られている南京玉すだれ。竹ひごを糸でくくり、すだれ状に編みこんで、伸び縮みするように作った玩具で、「しだれ柳」や「橋」など、いろいろな形を見立てることができる。「アさて、アさて、さて、さて、さて、さては南京玉すだれ」などの口上とともに、目にしたことのある方も多いのではないだろうか。

まず、『イラスト事典 大道芸大全』（同文書院 1998）を調べてみる。南京玉すだれの源流が、五箇山の民謡「こきりこ」で使われる楽器の「ささら」にあることや、南京玉すだれの口上があったが、形の作り方は掲載されていない。『図説江戸大道芸事典』（柏書房 2008）では、「すだれで見立てるものにはいろいろな名称がついており、丸い輪をつくれれば仏像の光勢、満月、細長く伸ばせば釣竿、持ち方を変えれば、橋の欄干などになる」との記述があるが、具体的な形の作り方については載っていない。

さらに手がかりを求めて、国立国会図書館の HP（※1）から「レファレンス協同データベース」で、「南京玉すだれ」をキーワードに検索してみる。これは、国立国会図書館が全国の公共図書館等と協同で構築しているデータベースで、事業に参加する図書館が、一般の方々の情報探索や、図書館員のレファレンス業務に役立つ情報を、随時登録している。

「南京玉すだれ」に関する事例は 3 件あったが、いずれも、形の作り方が掲載されている書籍資料については紹介されていなかった。

さらに、複数の辞書、事典を中心にした情報源から一括して検索できるデータベース「ジャパンナレッジ」（※2）で「南京玉すだれ」を検索してみると、「日本南京玉すだれ協会」（※3）が紹介されており、協会 HP へのリンクがあった。

HP を見ると、「玉ちゃんすだれちゃんの玉すだれ教室」というコーナーに、「技の紹介」として簡単なイラストで「釣竿」や「万国国旗」といった技が紹介されていた。また、「南京玉すだれの歴史」のコーナーでは、富山県南砺市上梨の白山宮が南京玉すだれの発祥の地として認定されたとして、その際の北日本新聞の記事が掲載されていた。

富山県立図書館 HP（※4）にある「郷土資料情報総合データベース」で「南京玉すだれ」を検索すると、新聞雑誌記事の項目に、関連する記事の掲載情報が複数挙がっている。日付の新しいものでは、今年 7 月 3 日に「日本南京玉すだれ選手権大会」が南砺市上梨で開催された折の記事の情報があった。

また、関連する資料を調査したところ、最近のものでは、「南京玉すだれ入門」（鳥影社 2009）が出版されていることがわかった。南京玉すだれが富山に縁の深いものであることから、今後の利用が見込まれると考えられ、当館で 1 部購入した。

資料を確認してみると、「南京玉すだれ 実演」として、「東京タワー」や「桜鯛」などの形が、実際の演者の写真や口上とともに多数掲載されていた。

南京玉すだれで様々な形を作る際には、この資料がわかりやすいようであった。

（本館 沖）

※1 国立国会図書館 HP <http://www.ndl.go.jp/>

※2 ジャパンナレッジ 有料データベース。富山市立図書館本館、とやま駅南図書館で利用することができます。

※3 日本南京玉すだれ協会HP <http://tamasudare.org/index.html>

※4 富山県立図書館 HP <http://www.lib.pref.toyama.jp/index.aspx>